



ひなどり

園だより 2月号

令和3年2月1日

新潟市立新津第三幼稚園

誕生会と、子どもとの遊び



園長 間嶋 哲

毎月行っている誕生会。私にとっては、小学校での全校朝会と同じように、月に一回全員の子どもの様子を見ることができる絶好の機会です。とても楽しみにしている会でもあります。その理由は、おうちの方が実際に来園くださり、様々なお話をしていただけるからです。今年度は、子どもの名前の由来と併せ、親としての思いを語っていただいたり、子どもの長所を教えていただいたりしています。私自身も二人の親ですので、命名するときの気持ちには共感できることがたくさんあり、時には、少し涙ぐむこともあります。一生、子どもが背負っていく名前には、親としての熱い想いがあって当然です。

今年度の誕生会では、私自身の役割として、クイズやなぞなどをしています。1月は、5問出題しました。その中のクイズの一つで、「足が10本ある、海に住む生き物って何？」というものがありました。答えは「イカ」なのですが、やはり「タコ」と答えてしまった子どももいました。「残念ながら、タコの足（本当は腕らしいです）は8本なんだよ」と話しました。大人なら当然知っている知識であっても、それはきっとどこかで獲得した知識のはず。子どもたちにとっても、そんな機会になればいいなあという気持ちもあります。

余談ですが、実は調べてみると、本当はイカも10本の足のうち2本は腕で、残りの8本が足なのだそうです。いずれにせよ子どもたちが将来、タコやイカを間近に見る機会があれば、実際に数えて確かめることも予想されます。不思議だなあと思い実際に調べてみる行動力こそ、将来の学力形成には重要な資質なのです。クイズやなぞなどは、そのための環境作りの一環です。

ところで私は、クイズやなぞなどそのものよりも、そのやり取りを大いに楽しんでます。単に問題を出して答えるだけではなく、子どもが思わぬ答えを出してくれて「なるほどなあ」と思ったり、数の認識を持たせたいなあと思いながら正解数をあえてカウントさせたり、正解数を聞いていくと、なぜか5問から1問まで、いつも手を挙げている子どもがいたり、微笑ましい楽しい時間なのです。

きっとご家庭でも、様々な遊びを子どもとやることは多いと思います。ぜひ、子どもの成長に合わせて、まずは大人がそのやり取りを楽しみたいものです。例えば、お手伝い一つでも「〇〇することが楽しい」という気持ちを上手にもたせていくことが、子育てには欠かせないように思います。

